

**8K 放送用カメラ対応ポータブルズームレンズ“10×16 KAS S”を発売  
超高精細な 8K 放送用カメラ対応のレンズラインアップを拡充**

キヤノンは、1.25 型センサー搭載の 8K 放送用カメラに対応するレンズの新製品として、放送用ポータブルズームレンズ“10×16 KAS S”を 2021 年 10 月下旬に発売します。



10×16 KAS S

“10×16 KAS S”は、キヤノンの光学技術を結集して開発した 8K 放送用ポータブルズームレンズです。近年、国際スポーツイベントやライブ中継、ドキュメンタリー制作といった分野を中心に高精細映像の普及が進んでいます。キヤノンは、8K の超高解像を実現する放送用ズームレンズのラインアップを拡充することで、拡大する高精細化のニーズに応えていきます。

**■ 8K 放送用カメラに対応する高い光学性能**

蛍石や UD レンズ<sup>※</sup>、Hi-UD レンズ<sup>※</sup>、大口径非球面レンズなどを採用し、色収差や球面収差といった諸収差を低減しています。さらに、キヤノンがこれまで培ってきた光学シミュレーション技術を駆使した最適なレンズ配置に加え、高精度な加工技術や組立技術による製造誤差の抑制により、ズーム全域において画面中心部から周辺部まで、8K 映像に求められる高い解像力と高コントラストを実現しています。

**■ 撮影の幅を広げる焦点距離 16mm から 160mm の 10 倍ズーム**

ズーム全域で開放 F 値 2.8 の明るさを維持するとともに、焦点距離 16mm から 160mm をカバーする高倍率 10 倍ズームを実現しています。スポーツやライブ中継などで使用頻度の高い焦点距離において、臨場感のある高精細な映像表現が可能です。

**■ 従来の 2/3 型 4K 放送用ポータブルズームレンズと同等の運用性**

従来の 2/3 型 4K 放送用ポータブルズームレンズで実績のある高分解能 16bit 絶対値エンコーダーを採用した高機能デジタルドライブユニットを搭載しています。これにより、高精度な位置検出を可能にし、実際の映像とバーチャル映像を合わせるキャリブレーション作業を容易に行うことができるなど、映像制作現場で培ってきた運用性を確保しています。

製品名	希望小売価格	発売日
10×16 KAS S	オープン価格	2021 年 10 月下旬

※ 「UD (Ultra Low Dispersion=特殊低分散) ガラス」を用いたレンズ。Hi-UD レンズは、UD レンズの性能を向上させたレンズ。

- 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンマーケティングジャパン株式会社 03-3740-3304 (直通)  
放送・新聞営業部
- 放送・業務用映像機器ホームページ : [canon.jp/bctv](http://canon.jp/bctv)

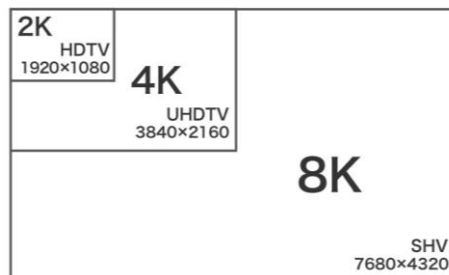
## <主な特長>

### 1. 8K 放送用カメラに対応する高い光学性能

- ・蛍石や特殊低分散ガラスの UD レンズ、Hi-UD レンズなどを最適配置し、色収差を良好に補正。色にじみや、輪郭の色づきを徹底的に低減し、画面の周辺部まで優れた色再現性を実現。
- ・キヤノンがこれまで培ってきた光学シミュレーション技術を駆使した最適なレンズ配置に加え、高精度な加工技術や組立技術による製造誤差の抑制により、ズーム全域において画面中心部から周辺部まで、8K 映像に求められる高い解像力と高コントラストを実現。
- ・インナーフォーカス方式や多群ズーム方式、大口径非球面レンズなどの採用により、焦点距離によらず、画面中心部から周辺部まで高い光学性能を実現。
- ・レンズのコーティング技術や、鏡筒内面の反射を低減する設計により、フレアやゴーストの発生を抑制。HDR や WCG<sup>※1</sup> 映像撮影時に階調豊かな映像を得ることが可能。
- ・ITU-R BT.2020<sup>※2</sup> ベースの色収差補正データを搭載。高精度な色収差補正を実現し、階調性に優れ、質感や立体感のある、人間の視覚に近い自然な映像表現が可能。

※1 Wide Color Gamut の略。映像の色域（カラーガンマ）を広げる技術。

※2 ITU（国際電気通信連合）策定の UHDTV 放送方式の映像信号を規定する勧告。HDR/WCG に対応。



解像度の比較（8K は現行のフルHD の16倍）

### 2. 撮影の幅を広げる焦点距離 16mm から 160mm の 10 倍ズーム

- ・ズーム全域で開放 F 値 2.8 の明るさと、1.25 型センサー搭載の 8K 放送用カメラに対応する光学性能を備えながら、焦点距離 16mm から 160mm をカバーする高倍率 10 倍ズームを実現し、さまざまな撮影シーンに対応。スポーツやライブ中継などで使用頻度の高い焦点距離において、臨場感のある高精細な映像表現が可能。

### 3. 従来の 2/3 型 4K 放送用ポータブルズームレンズと同等の運用性

- ・従来の 2/3 型 4K 放送用ポータブルズームレンズで実績のある高機能デジタルドライブユニットを搭載し、映像制作現場で培ってきた運用性を確保。
- ・高分解能 16bit 絶対値エンコーダーを採用した高機能デジタルドライブユニットの搭載により、ユーザーの操作意図を再現する高い制御性能を実現。高精度な位置検出を可能にし、実際の映像とバーチャル映像を合わせるキャリブレーションが容易。
- ・絶対値エンコーダーの採用により、ドライブユニットに電源が供給された際に、初期化の動作をせずに、カメラ側の色収差補正機能や位置検出、ビューファインダー上の位置表示が可能。
- ・20PIN 端子を 3 カ所に備えることで、ズーム/フォーカスコントローラー（ともに別売り）の両方を使用した場合でも、バーチャルシステム用信号出力端子を確保することが可能。
- ・ドライブユニット上に情報ディスプレイを搭載。各種機能を簡単に設定、調整、操作可能。
- ・8K 放送用カメラに対応する光学性能と 10 倍ズームを備えながら、質量約 2.9kg の小型・軽量の筐体（きょうたい）を実現。肩担ぎでの取材や機材運搬時に求められる機動性を確保。



高機能デジタルドライブユニット

## <ご参考：4K・8K 放送用レンズのラインアップについて>

キヤノンは、世界最高\*倍率 6.7 倍を実現した国産初\*の放送用ズームレンズ「フィールドズーム IF-I 型」(1958 年発売) から 60 年以上にわたり、高性能レンズを通じて映像業界のイノベーションに貢献してきました。4K・8K 化という大きな変革期を迎えた今も、その姿勢に変わりはなく、たゆみない研究から生まれた最先端の光学技術と、メカニカル技術、材料工学、生産技術を融合し、厳しい評価試験を経て操作性と信頼性を確立しています。

キヤノンは、4K・8K 化という時代の要請に、先進の光学技術で応えるとともに、超高精細な 8K 放送用レンズラインアップのさらなる拡充を進め、映像制作現場の多様なニーズに応じていきます。

※ 1958 年発売当時。キヤノン調べ。

### <8K 放送用カメラ対応ズームレンズのラインアップ>

カテゴリー	製品名	発売年月
フィールドズームレンズ	UHD-DIGISUPER 51	2020 年 4 月
ポータブルズームレンズ	10×16 KAS S	2021 年 10 月
	7×10.7 KAS S	2019 年 12 月

## <放送用レンズの市場動向>

日本や欧米諸国では、デジタルテレビ放送の普及に伴う放送機器の HD 化がほぼ完了し、日本国内では 2018 年 12 月より「新 4K8K 衛星放送」が開始され、4K・8K 対応機材の導入がさらに加速しつつあります。一方、新興国では、今後デジタル放送への完全移行が予定されている国や地域も多くあり、HDTV 放送用機材の需要も継続して見込まれるとともに、4K・8K 放送への関心も高まっています。(キヤノン調べ)

## <主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。